

コクヨ株式会社

国内外のあらゆる人と拠点をシームレスに接続 働き方変革を加速するネットワークを整備

導入サービス名：Arcstar Universal One



コクヨファニチャー株式会社
スペースソリューション第1部
ソリューション第1グループ
コンサルティングディレクター
鈴木 賢一氏

「当社が推進する『働き方変革』をさらに大きく前進させるためのネットワーク基盤を実現することができました」



コクヨ株式会社
情報システム部
インフラプランニンググループ
グループリーダー
弁木 純氏

「国内外の新規拠点へのネットワークの展開がスムーズとなり、拠点開設にかかわるコストや工期を大幅に削減できます」

企業情報

社名 コクヨ株式会社

資本金 158億円(2013年12月末現在)

従業員数 連結 6,399名、単体 340名
(2013年12月末現在)

事業概要 「ステーションリー事業」「ファニチャー事業」「通販・小売事業」などを展開。人々の仕事や生活をより豊かでクリエイティブにする商品・サービスの提供を目指している。

URL <http://www.kokuyo.co.jp/>



課題

- ・「働き方変革」推進に向けたネットワークの全体最適化を求めている
- ・回線負荷が急激に高まっている上、ランニングコストも増大していた

対策

- ・高品質・高信頼で海外にも展開しているネットワークサービスを採用
- ・拠点の規模や重要性に合わせた適材適所なネットワークを構築

効果

- ・テレビ会議などのツールがストレスなく動作する環境を実現
- ・海外を含む新規拠点へのネットワーク展開がスムーズに行える

課題

「働き方変革」のさらなる推進を目指し ネットワークの再構築に着手

「商品を通じて世の中の役に立つ」という経営理念を掲げるコクヨ。文具製品やパソコン関連用品などを提供する「ステーションリー事業」、ECサイト「カウネット」を中心とする「通販・小売事業」、そして、オフィスや教育現場、医療現場など家具や什器を提供する「ファニチャー事業」の3つの事業を展開している。中でもファニチャー事業においては、単にオフィス家具・什器を提供するだけでなく、そこで働く人のワークスタイルに関する提案やコンサルティング、それを支えるためのオフィス空間の設計までを手がけている。「業務改革や会議の改善、スマートデバイスを活用したモバイルワークや在宅勤務をいかに実現するかなど、お客さまを多様な側面からご支援しています」とコクヨファニチャーの鈴木 賢一氏は語る。

背景には、コクヨがオフィス家具を提供する会社であることはもちろん、同社自身が積極的に「働き方変革」を推進してきたことがある。例えば、1997年には、他社に先駆けてフリーアドレス制を導入。その後も、モバイルを活用した「隙間時間」の活用、各種コミュニケーションツールを活かしたコラボレーションの拡大など、さまざまな施策に取り組み、高い成果を上げている。

しかも、その範囲は海外にも及ぶと鈴木氏は言う。「現在、当社は海外売上比率を30%にまで引き上げるという目標を設定しています。そのためには、海外拠点においても同様の働き方を実現することが欠かせません」と鈴木氏は紹介する。

こうした取り組みを進める上で、重要なテーマとなったのがネットワークの最適化である。すでにビデオ会議などの利用によって、同社のネットワークはトラフィックが飛躍的に増大している上、回線維持に関するランニングコストも年々肥大化しつつあった。「特に帯域の問題につ



Global ICT Partner
Innovative. Reliable. Seamless.

いては、サーバーの仮想化統合を進めてきたことも影響していました。システムをデータセンターで集中管理しているため、データセンター側の回線への負荷が高まっていたのです」とコクヨの井木 純氏は説明する。

同社は、これらの課題を解消しつつ、海外拠点を含む全社を網羅し、最新のワークスタイルに対応できるネットワークの構築に着手した。

対策

信頼性やコストなどの総合評価に加え グローバル展開のしやすさを高く評価

ネットワークの再構築に向けて、同社は複数のキャリアやITベンダーに提案を依頼。評価に当たっては、信頼性や安全性はもちろん、300もの拠点があることを踏まえ、単なるランニングコストだけでなく、移行に要する費用やコクヨ側の工数までを考慮するなど、総合的な評価を行った。その結果、採用されたのがNTTコミュニケーションズ(以下、NTT Com)の提供する「Arcstar Universal One」である。「サービスの品質やサポート体制といった総合評価に加え、当社がビジネスを展開している海外拠点でもサービスが受けられことが重要なポイントとなりました」と井木氏は述べる。

構築に当たっては、あらゆる拠点を適正なコストで接続するための工夫を行った。具体的には、拠点の規模や重要性、投資対効果などを考慮しながら、それぞれにアクセス回線を選定したのである。

高い信頼性や通信品質が求められるデータセンターなどには、メイン回線・バックアップ回線ともに100%帯域を確保する「プレミアムプラン」を採用し、本社や配送センターなどの重要拠点には「ギャランティプラン」、支社・支店などの中規模拠点には「バーストプラン」、小規模な拠点にはBフレットベースのリーズナブルな「ベストエフォートプラン」を適材適所に選定。全体最適化を図っている。

効果

ネットワーク展開手法を標準化 新拠点の展開もスムーズに対応可能

現在、同社はまず国内の約100拠点を中心にArcstar Universal Oneに接続。これにより、同社の働き方変革はさらに加速しようとしている。

例えば、以前は1~2Mbpsと狭い帯域のネットワークしかなかった小規模拠点でも、ビデオ会議などをストレスなく利用できるようになった。「外出先からシステムを利用する際のストレスも軽減していま

す。ネットワークの刷新は、我々の『働き方変革』に大きく貢献しています」と鈴木氏は強調する。

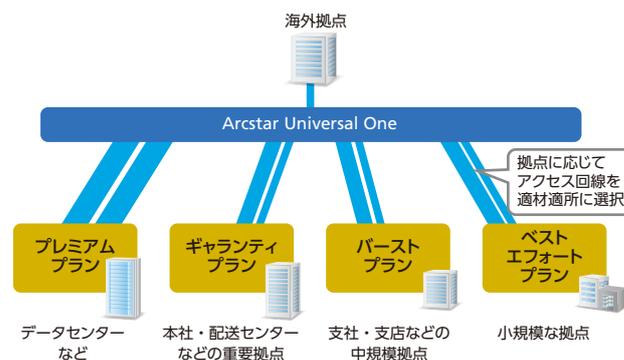
また、同時にNTT Comのサポートを受け、東京霞ヶ関のオフィスにワイヤレスネットワーク環境も整備。営業担当者を対象にタブレットPCを約1,000台配布し、さらにモビリティを高めている。

データセンターへのサーバー集約についても、以前は集約を行う度に想定トラフィックを算出し、回線増強を踏まえた検討が必要だったが、新ネットワークの構築によって、そうしたタスクは不要となった。必要に応じて集約を図れるようになり、同社は現在までにサーバー台数を約40%減らすことに成功している。「ほかにネットワークの展開方法が標準化できたこともメリットです。新拠点を立ち上げる際も、ネットワーク設計に煩わされることなく、スムーズに展開できます。今後、さらに海外にネットワークの適用範囲を拡大することを考えると、非常に重要な成果と言えます」と井木氏は語る。

働き方変革の推進に欠かせない新たなネットワークを手に入れたコクヨ。同社が積み上げた経験や実績などは、今後、コンサルティングサービスなどを通じて、多くの顧客に還元されることになる。

「単に生産性を上げるという言葉で片付けるのではなく、何のための働き方変革なのかが重要です。当社が重視しているのは、ビジネスの『スピード』の追求です。例えばお客さまへのレスポンス、意思決定の速度をいかにスピーディーに行うか——。そのための変革なのです。今回、それを支えるネットワークを整備できたことは我々にとって大きな前進です。NTT Comとの強固なパートナーシップのもと、今後も働き方変革に挑戦し、多くのお客さまのビジネスに役立つ新しい方法や考え方を確立。それを広く発信していきたいと思えます」と鈴木氏は力強く語った。

図 コクヨのArcstar Universal One活用イメージ



Arcstar Universal Oneで、まずは国内を中心に約100拠点を接続。その際、拠点の重要度や業務内容などに応じて、アクセス回線を適材適所に使い分け。適正なコストで、最適なネットワークを構築した

お問い合わせ先

NTTコミュニケーションズ株式会社

法人のお客さまお問い合わせ窓口 [法人コンタクトセンター]



0120-106107

受付時間 9:30~17:00

※携帯電話、PHSからもご利用になれます。土・日・祝日・年末年始は休業とさせていただきます。

ホームページ

www.ntt.com/business/

●記載内容は2014年9月現在のものです。

●表記のサービス内容は予告なく変更することがありますので、お申し込み時にご確認ください。

●フリーダイヤルのサービス名称とロゴマークはNTTコミュニケーションズの登録商標です。

●記載されている会社名や製品名は、各社の商標または登録商標です。